



阿比紀

申

14

5  
1265  
2





J. KadoKane  
28.10.50.



へ 5  
1265  
2

綾錦巻之中

沾涼緝

此名の一文字を露言に洗うると  
色をぬせ 濁しをくたると花の露

露沾

白紅今ぬく沾涼とぬ 百福寿序略前

此一字 廣く出くえとくらしり 全

賜沾字の時

六のまかのまの糸あり

十分にくるはよそとぬ 夏菴波 沾涼

露沾と一字を送ると

飛石子 固めやふあの花標 露沾

赤月(那)の一字を送る

世の星を雨路と走りあつらん 全

○中



○江都當時宗匠

次第混雜

|             |         |     |
|-------------|---------|-----|
| 風風く清へ庭を     | 柳の影     | 千翁  |
| 天津橋時乃寫り     | 以高母大工   | 周竹  |
| 乱もてい鬼子降     | 天乃堂如    | 沾洲  |
| 天の花にさし海の日なり | 月今有     | 山夕  |
| 一節の滝乃さうと    | やび火の衣   | 批翁  |
| 早乙女を流せと     | 磯の足ぬをのを | 一漁  |
| 花も枝も万葉より    | を東方通    | 倫里  |
| 幸崎の松をあら     | ぶよ天の川   | 當国  |
| 梅のつぼみ       | さく志の女井  | 湖十  |
| を眺め         | やみく     | まは上 |
|             |         | 史登  |

|         |       |    |
|---------|-------|----|
| 舞乃目不便   | 又ある月  | 貞佐 |
| とるまゝの吉原 | 披せ存此月 | 和推 |
| 凡致此舌    | 歩を待あつ | 不局 |
| 初雪や     | 苔の細る  | 青峨 |
| 月又聖の物   | とやめて  | 今更 |
| まの書や    | 作聖ニ   | 水国 |
| 馬の香     | 側く    | 来川 |
| 帆柱子     | 一庭    | 陰威 |
| ふも川     | を刷色   | 貞山 |
| 水多し     | にさ    | 超波 |
| 葉も      | 流も    | 百洲 |

○P

○三







刺乳 桶ノ月乃入江乃奇よそ

辛糧

泉名をアヌ今那の後移

孫より子似合ぬ其腹ぬい位立

と通ふ左路子すしに俗人

振来に柳一ふ鯨のけく答と

併つこ省を折いかにや

番面ののよくする家の棟上り

昔糧

尺也くいふは是す能治り子

発出ゆく船のその金をとひ色猫

未音

一以百韻 未歌く

付書之拾七勺

廿月長三勺



墨印

廿五勺宛

幸糧 点十六勺 也長勺

可入 点十五勺 也長勺

正勝 点十六勺

束音 点十勺



寛文頃

松樂軒立志点

九隆

花を色じきあやあは風流の 怒流

即お志のせ 色は 笠松 全久

おし雪あらしくおは糸もろし ト入

おしきお平へあらしあらしり 由宜

着おあし小袖以後の室土産 春室

おハおおしあらしりしお友 室次

おのあらしりるお月の酒をのし 膳平

おの室中にはうお市立 釵情

お情なるあらしりあらしり 枕筆

おあらしりしお子ハ室寺 調和

一順のしりし未略之

下室七松

世門 長氣 九五

三月十日

●墨斤





玉辨の石草食上や表乃駒 行尚

菊母氏

自服略

二十七の月

行年の中

月

夜

秋

墨印



切参 小町 海老 蟹 鮎

調和

風堂

自服略之

解 墨 平 之

嘉 在 心 卷 之 臨 事 之 向

柳 葉 之 紙 心

印



訃の境より姪とのをふる鶴 尺草

露言門

此句は巻の終りありてはなす言宗匠の  
何れにせよとていふるは尺草老人の物語なり  
よめていふいふてその巻の長点をくつみ  
乃終るは片久しわけて平長し

古才七徳門

七

あふ

印不見

元祿頃 續二百韻 未調和評

漢

雨ハ水やそる春ハ物中 唐宗

六瓶ハ瓶子 腸を 新 良種

漢ハ棟ノ大目ハ林ノ鄙園 白鳥

五林ハ野人と 傷子 淑望 淳生

新月子 酒たのまて 漆栗毛 桃翁 桃漆

五意 悲し 猿、松子 賊 雅 未立志 立 依

四芥 指し 燈店ハ 妙ハ 自に 舟竹

八 芥の 餅 出せと 了 殿を 刑 子英



和尙と利休、お方を致したる  
花笠

孫子雪より、多岐の味 素也

十一、多岐の味 宿後存 音信  
一 鶴

四、多岐の味 昨の多岐の味 音信  
一 鶴

五、多岐の味 友眼派とら〜、多岐の味 二柱  
詠居

長、多岐の味 往昔の智を 修小 時 節 七  
和共

四、多岐の味 永樂と名付る 編を自然に  
蓬雨

長、多岐の味 君乃仁、多岐の味 万 物此 由家  
幽蘭

十二、多岐の味 以月の富士川子 船津多子 摺  
丈岳

四、多岐の味 魚、多岐の味 秋を 謎〜 爲る 密流

座甘 金杯 長雅 旭志

一唯而已し〜未也



牛 山 然

此所有印略

七十六

調和

朱印





  
 三二草に根を以てて豊園野  
 今露月ト云  
 識月  
 服々略々

多  
 五  
 日  
 月



探草

茶に味を付くる雪の且  
 止  
 吳竹



碎中  
 未書

此取点印譜略之

長ハ  
 五ノ

雪ノ



不見



鳥  
天凡 撞 派 取 々 色 小 外 南 仙

脇ヨリ畧

沾涼

針 市 山 日

鳥 二 鳥

か 々 々



朱

戸 出 一 々 々 我 子 山 一 山 一 鳥 今 百 二 一 云 周 應

子 山 山 山

信 安 本 之 安 本 也

山 山 山 十

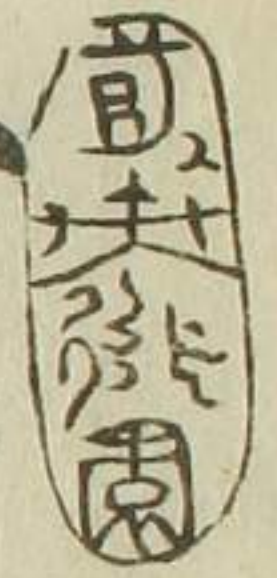
七 十 也 周 又

子 山 山 山



中

飛石乃水口たるは千楓



十乙張中

此間有印略

七十一

立志



我目

極

山吹の流〜黄なる目好く正共

脇ヨリ略

残墨八句

我手心

流

山

・樋口氏  
期山夕





銀

昼形中  
二所  
白八音

北村

東巴

照ヨリ畧

魚目見九

銀長

新長

鳥也

鳥也



調

山陽  
丸く

堆るる  
乃雪

調



沙考丸

印

長

子



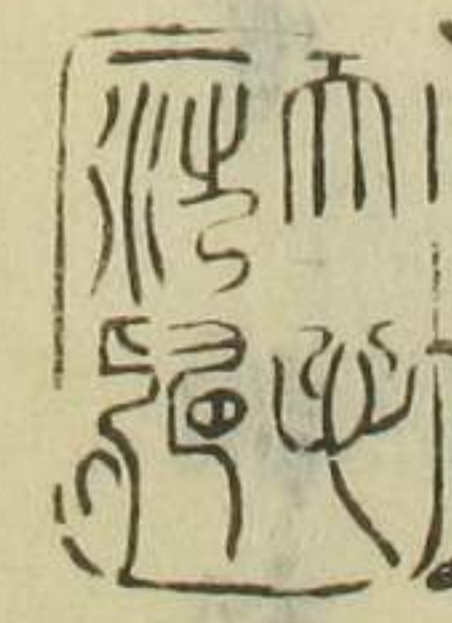
○中

○十二



折よる浪  
渡水  
新酒の安房上徳  
蓮之

浪ハ  
形ハ  
長サ三  
浮生



物  
刻  
心  
川勝  
丈岳



之  
心  
三

三





對揚

真乃間の縁佛を尼る異乃外

宮川

千風

新元六

平家

長生の心

長七四

个成

泰復

金夷袋

所望の松を縁——くわ——

銘本

東隣

服よる

石跡  
石獨  
有美押

古白

柳翁

松の心

ふく



志之... 朱... 雪朝

古... 一

揮... 二

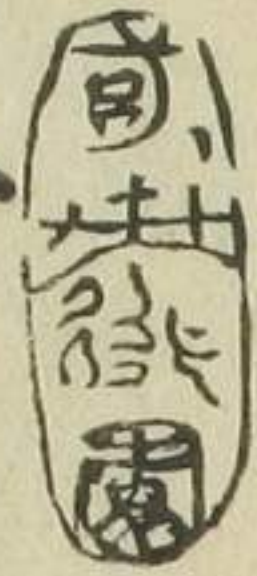
系... 五

年... 十

為



珠... 王宇



...

...

...

立



三代目







龜背

郭云法乃以和之中禅寺 中車

不見

九丁線

一葉一色

不乃了个身

法橋



大符の精をみくや物さる

五百武

浦 善 於

本 上 世 於

世 長 一



水 師

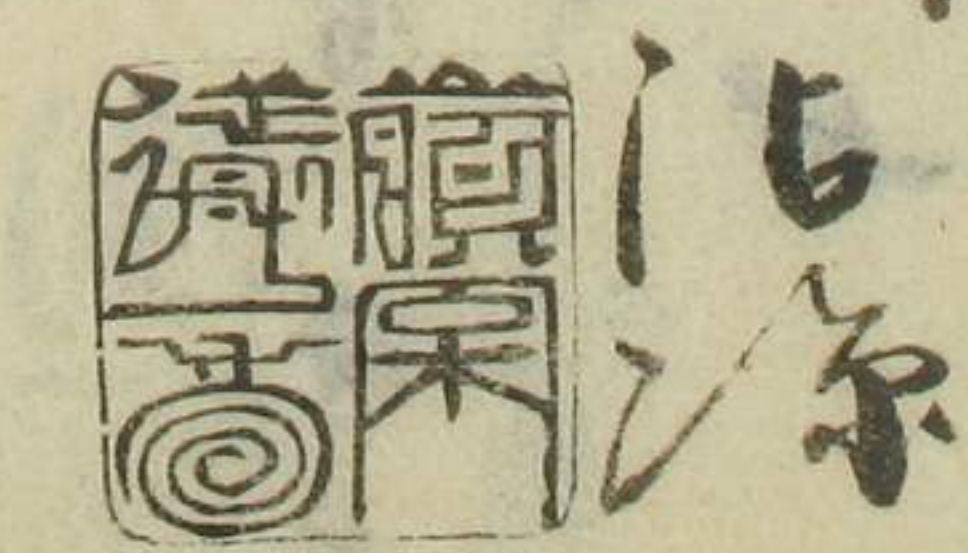






野  
 朱  
 繪  
 國色  
 倫仙

以  
 火  
 林  
 印



當時宗匠点印譜 次第不同

|   |
|---|
| 調和印<br>以辭爲用 <small>十五</small> 兩朱 <small>七</small> 長 <small>三</small><br>獅子 <small>九</small> 紅絲石 <small>十</small> 朱 <small>五</small> 丸 <small>三</small><br>玉姿 <small>十八</small> 回文錦字詩 <small>十五</small> 新月色 <small>七</small><br>花影上欄干 <small>十</small> 回雪 <small>五</small> 長 <small>三</small><br>鏡波山 <small>三</small> 珥比磨利 <small>十五</small> 異玖用加 <small>十</small><br>衿菟流 <small>七</small> 朱 <small>五</small> 長 <small>三</small><br>彈夜月 <small>十五</small> 天壽 <small>十八</small> 金氣糲糟 <small>十</small> 丹頂 <small>五</small><br>立夏清風至 <small>十五</small> 君子鳥 <small>七</small> 長 <small>三</small><br>金精 <small>三</small> 映朱 <small>十八</small> 銀輪影斜 <small>十</small> 朱 <small>五</small><br>玉夫弄桂花 <small>十五</small> 廣寒月 <small>七</small> 長 <small>三</small><br>五更 <small>二十</small> 四更 <small>十五</small> 二更 <small>七</small><br>三更 <small>十</small> 一更 <small>五</small> 長 <small>三</small><br>内田沾山 |
|---|



神物護持順勺丹鳳十五畫中詩十風檣七 三  
稻川當國

簷花雨平 宗玉韻三 玉鵬八 孔彰五

無上室準 天心月廿三 寶玉二十 千珠十七 神妙五  
秀逸十三 無極十二 大極十一 銀漢十九 曜九 蒼溪八 立羽十 翁

龜脊七 俊六 豪五 英四 朱三 長二

羅浮夢十八 東閣詩情十 朱五  
貴志活洲

月黃昏十五 江南梅七 長三

水調歌十八 春江花月夜十五 清平調詞十  
江川百洲

長相思七 朱五 長三

神虛感平 一種風流推國色十六 色典香奩十三 有玉十  
瀨尾拙翁

神虛感平 三千一平 白宇留利五 長三

頌滿耳十八 崑崙玉餘十五 乘水金十  
雲津水國

千載觀七 朱五 長三

花重錦管城 楊彩三 光十五 車輪玉十三 黃禽十  
三田自峰

錦管城 曲浪八 行帆七 朱五 長三

無盡室准 天高月二十 化玉十七 神龍五 秀光十三  
立羽不扁

華德十二 有隣七 文戒十 螢雪九 枕書八

鷄窗七 順六 樂五 好四 朱三 長二

其前印 一日長安花十 洞庭月七  
曾湖十

半面美人 越雪五 長三 丸二

天地陽花平 清奇加五字 奇陽公至十  
笠家逸志

笑桃李七 朱五 長三

翰林賜錦袍廿五 玉堂雲霧客二十 金榜題石十五  
帶金舞山

一枝桂十 黃甲七 朱五 長三

室鼎平 龍七 鳳九 秘曲二十 簫廿九 馨平  
且立來川

三籟十五 呂律十三 宮九角七 羽五 長三



屈敬十八

金銀十五

四字十

三字七 朱五 長三

長坂成屋

眉曹印

墜玉簪百

翠蓋十九

探荷

醉中翫

百花嬌語十

弄晚涼七

探菖五

櫻井更登

夜梅三十

睡海棠二十

國色五

菊岡沾涼

挂十五

未央柳十五

美孀人七

朱四 長三

仰高鑽堅准慎其獨平明德十七志學十五長星而

立羽壽角

九龍館十八

壁玉簫十五

洞裏神仙十

大山壇七

朱五 長三

志村常仙

花生二十泥書十八五字十五四字十

破中玉八夜光六朱五 長三

打田今更

古音娥印

金声十八

薰風自南來十五

海棠七

長三 前田音娥

二妙二十万斛香十五月明美人朱五

花千天下春十雪玉條七長三

岩本乾什

沉香亭 月雪十五三字月七長三

五字花十二字雪五九二

曾永機

五字順句 彭澤二十孤芳十五金玉錢十二

寒英十晚節七獨秀五長三

今村陰威

隨唐十八花街簫鼓月十五露往霜來十

支機石七朱五 長三

石川壺月

蘭奢待十八千鳥十五蓬山一樓雲十二

金玉翠珠十鵜鴒七朱五 長三

千豆尾谷



鳳銜十八 德高比君子十五 朱五 長三 潜水超波

石蓋山暉十長州英七

季吟法印 吟市門人 吟市門人現

尊海和尚 又津見氏 街直參院居

一僕とほくくあまく花んうね 季吟  
家つとや散れを荷子まるとし橋 占 吟市  
一節ハ木の葉そく福る歎 道 吟市

其角門人 堤亭下邑氏 現 苔翁右壽衣氏

東坡賢 堤亭奇 点印附属

ワの雪とちとくまか中一笠の上 其角  
ふらりの尻の紫びき一秋の末 堤亭  
くハ梅樹むいさくく ねのくの 苔翁

人日

摺小本と遠里小笠乃菘うね 露沾

早春

あし魚や産院淋しき東乃色 扇風  
唯も今朝の残のなあり青乃雪 溶く

歳始二句

越前丹生郡西甲中領

初菘ね兼乃兼や弄出海 南北仙南花

赤椀の白ふやまのけいふなを 貞梁氏桃

赤々兼の連者をそりる兼摘 沾沾京門橘

すーる士の赤ひくうとくさの露 日日門魚路

初寅

秦姓嫡

并當をそくくもくや房り春 不水



梅 じやうしやうのり

梅活きて伴え流るる美揚非情くし  
門番の海月いたるは梅の昼  
うきまや花の鏡の志の人め  
正氣教音して又あはれむの花  
眼の心ほのりも聞や忘ら梅  
吹通る梅の梅立中一押

初午

午そくふるうぶの梅新ち  
ふらふらや初午日水流波ふ  
まみらなう中たゆるふの梅花ふ  
まふ午の年の年一の梅花自

芭蕉門

ト宅

雪朝

沾涼

有林

有林

沾賀

有林

梅宇

五百武

布仙

露人

上巳

桃坐の雛子うひて沚濂水  
大川の流いもあり紙雛  
飛ぶハ神代のまの雛外  
沙千うね女の物ぬハ一束  
治千外せめても雲の墓参り  
治千の子鼻身投一不ま  
寺権のよこまなまは治千外  
まじりく一まじりくも桃の色  
龍まめ大津のまは治千外  
まの治品川ち一安房上総  
時津風加えて春の解びる

太平

露沾

竹裏

賀朝

賀朝

有佐

調山

快山

沾涼

魚路

紀逸



拵

世に川を

おのこを掃除さる柳外  
知盛も出へき浪や凡柳  
青柳の梢を漕や夜の袖  
去年の荷をおりて動く柳外  
風て朔やとる廣き柳

花

庭掃とる菊も白毒花を  
水柳の裏千と日如さる外  
垣百尺の葉女の素形や朔さる  
てかたれ袖もさるる花の砂  
花見も花を枕に甲斐成流

芭蕉門

卜宅

雪朝

沾涼

甄

倫仙

紀州若山

沾涼門

蓮之

末石

背里

好夕

佳

中田川氏

北尾氏

加島氏

和歌才門

立

音

落霞

分角

李條

其角門

英風

松

樓川

千洗

魚棘

扇的

改壺竜

沾涼門

猪飼

扇的

魚棘

千洗

樓川

英風

松

李條

分角

落霞

音

立

和歌才門

立

音

落霞

分角

李條

其角門

英風

松

樓川

千洗

魚棘

扇的

掃除を天流し詠めく水  
千金の虫限もちり花の香  
抱へ今世主のさるる花の  
汲み花の何らの花を水車  
沙瀬の風のさるる花の  
云月を色えてさるる花の  
色は退き月の花を扇に  
左 名上野乃乃  
見付く通事とかも花の香  
花の色若葉子笑く人の者  
大佛の存りの孝而も作る  
花やらん高き下谷の如色



門を合を合もつるに空々  
りあふ仁王を有るに空々

卜宅  
梅五

清くまゆ

舞中一すの飛の去りさへ外  
山門と飛子山と多や木大師

魚路  
五百武

白魚

去る魚や一疏子流聖の九月西  
去るをわふ子尺申白ハ玉子  
星を焚ク去る魚船や一江流

雪朝  
北尾氏  
才唐門  
一店

生植

蘇柳や一乞の作部風古衣折  
氷柱や一凡も惜ず一春の心

琴月  
梅宇  
津美氏

ひし雨子文紗を絞る清く外  
英人子ハカ痛き一独活の内  
女流聖や去るに海と一磯石橋  
へ<sup>腫帯</sup>ひし雨の臂と見るとる春の芽外  
るふのふら

賀朝  
安祖  
露門  
水戸  
沾戸  
沾瑶  
丈岳  
秦姓

菜の花や一細く病て初田屋  
勢多の虫を去るに菜の花を  
菜の花や余下り離れ井の底  
菜の花子照了帯りて二輪う病

沾徳門  
沾津  
沾京門  
東津  
梅五  
伊賀菊  
伊賀氏  
記之

二氣形

あ申しとと妙て田う一の夕日外  
うふ守や人の泉菊鞍馬胤

逸志  
調柯  
笠家素竹軒



井戸掘乃いとしくきまのそむ

露八門 露庭

貸のうへ虎渡よあぬひさう外

新列郡山 云々

棠の空子豆の園鳴かきう外

孤中亭 其悠

秋眉の紙屑と如ゆ丁う如

露八門 快山

番祿算し金運あむまの如蝶う如

水戸 沾渡

何よりの蝶のやうや牛の糞

希聽

あ世の襦そろへ漢苑のひしり

福科氏 菊千

ひしり誰浪らを下流の流さうあ

未石

田氣のよつふ只今うらうら

周皎

いふ背負ふ桂や如泉の藤田あて

江戸ハシ 只口

ぬの女の笠かもしろきいあう如

賀朝

長閑な牡丹のあある聖何う如

信州松平佐 三省

出いりやうきよへ浅きあけ子摺

夕龍亭 云々

よき友へ麻すく細の芥うら

水音

大名の表乃中やうきい如

御柳

そめやおもひあむる祿ら上戸

立儿

や如入や侍あ外の魚千里

和歌山門 田井氏

天満宮法案 武皇左郡 藤宿連

挑舟

筆鏡子柳り梅やゆり名り

万里

神垣の五教喫しむめの輪

李冠

大空の味や者物移乃板

李角

沙花をや百大切のしめ板

李角



貞徳門 松永軒門 正徳 長子 和藪才門 謂正手 正全 長子  
宮邊氏 正勝 同苗 正興 同苗 正全 同苗

正勝  
 乙卯の紅ニ大浮きしん秋の巻

此句、多知者、はく、さる、人の、西海、ひ、あり、し、

正徳  
 ちく金のし喜のありくす柳外  
 正興  
 多も秋き雪をははゆくや後一也  
 正全  
 花や果やもさうぬものを極と也

西武 山本氏 白雪 多村 現郭月 長子 東巴 長子  
源氏白合堂主 誹諧十二 同苗 同苗

西武  
 雲火ハ秋居とるのあり外  
 白雪  
 若さるくしきのりやらふ心もるが極  
 東巴  
 天カ海をさゆりや種乃也

詞仙

賀 50

乙月ヤ方方如くは出真津浪  
 蜀江錦をくくむ 鶏既  
 感宮ハ煉情志ハ以津く鳴て  
 駕籠子とくもる福人此後  
 沙風小わくおしらハ松のまる也  
 芝生ハ新畑も星石中ハ  
 大く金の水晶輪の化々仕業  
 やどの也二年の心差差七  
 去海とハ一城築クこん心合  
 恪気の味もハ可車押ス



くくくー 恋の彼と夏夜をこ  
ころも月ー ぬ蟻ー こと  
混沌と逆拜ー 入川口屋  
布袋の沙汰する産土神  
相惚のきよいあやこそかられ星  
瓦礫の噓らにるる家  
良ぬの素味を軍や赤雲  
くくくー へこと子藏王堂浮ッ  
け華ー 経吹切らしらッ 命ッ  
あゝぬるいさくも 鯛  
口統子子幸味志海邊の魚が死マ

小町の果を十月の菊  
世のをめくくくー ぬめる新菊  
井さくくー の縄 三と心言  
番所ハ 坤皆新子くくくー 星  
酒呑童子の毒少大部屋  
義盛の荷着て一家の定基扱  
権ー 被さくくー をもくくー 代  
姐板に万敷 権る 十三束  
気子入座証突も花ハ 蓮  
蛇の舌フさくくー 知若く 姉く 産  
葉茶真ー 於柄の果



寛永の繪品の御白紙  
芝居を尺杯と申入ぬ金  
花なまや人の草冠をまじり  
いふぬ仲るも、紫花心次

其角

杉尋

久米田氏 押塘

堀

賀朝

同苗

藤堂家ノ醫

車保 西工 青年

同家醫

沾涼三物組

沾涼三物組

長閑さの海生ハ海の表づく  
る工希の身ハせなす一討も

古人

杉尋

賀朝

昔の来もいふぬ何よの果さ外

不角門 吉田氏

賀角

未得老人ハ祖母の養父と云ふ沾涼を今  
其志を海に送りあり因て未の一字  
をとめて排名を改めぬ

邑里堂

未石

其歌を流して知る新樹ノ如  
汗の海とよら藍の 蝶ぬき  
庭如し此床し心をつきて来て  
そぞろとんやとよみハカ  
各際をさるる月ハ東男  
あゝとぬき居 雀 二夕役  
鶴取の案ハあつて 定 障子  
女房乃 瘡 精 共 在 入 せ  
潔いかい 鱧もあつてもを掃  
黄ひくさぬよ 着ハや ぬき



る重と目申てお、ささひ併  
はしらの紙の先達尺重ケ  
新也子控藻左頼子巴月の松  
片を烟あきき昔年のの舞  
白髪如き老いと年のの噴き  
ふら子折しくる日のあい  
と孫孫く冷たをさくと福乃至  
鬼のしらをむし深おご  
浪の極るともあつて重は浪後  
時中の喜子也是我聞續  
夕立の拍子いぬける暮あい久  
駕筆のまくしたして、飯以

淡茶肩いをたあ櫛くく大桂馬  
干浮を見る水のどりあ  
白心赤い候るるものを赤百  
多葉赤入より折し紅株を  
深文子殊極める解毒丸  
いつの自身をあらのあまい  
風子赤肩の素面三月出  
大乃くりを重あらぬ霜  
奈本子袖言ぬき終る決まる  
鞠のあらい菓子て埋らる也  
昔の氣場を鳥の達ふ白大津  
晴は大根唐うの竹合



人唐のそとあり見し一勸学所  
ありしとぞつとこ月のみ湯気

貞徳門  
●●未得

可曉 中田川  
哥学

可信 日苗  
哥学

未石 日苗  
邑里堂

子  
未珠

式及の事しそまにりまてせり以下坂市とて  
つる力能治の治系をより給事の人  
下坂市并所佐

あまふり二所より下坂の門の報き一報治へ貞徳  
垣よりまぬのなりしを  
未珠

垣載てあまそまにりまてせり以下坂市とて  
あまふり二所より下坂の門の報き一報治へ貞徳  
垣よりまぬのなりしを  
未珠

朝顔をばりたりおかし湯合の道より下坂市とて  
朝顔をばりたりおかし湯合の道より下坂市とて

朝顔をばりたりおかし湯合の道より下坂市とて  
朝顔をばりたりおかし湯合の道より下坂市とて

郭公

初考のい大加城ゆり一時多

中しくまに蛙千又ありなり

星を吾の初報系一の時多

雲に湖一雲よりありて和ほとまに

物とまに城のまにれ乃吉田橋

ありし方のお鏡の物とみれ

ゆり一人間よりありし物とみれ

髪結子服をまにせの奉とみれ

ほくまに扱を枕る老角力

そ想とてぬ髪波を五人蜀糸

うらうらと信郭より乳房より

吟市

當国

賀朝

し風

鶴史

李條

古竹

有佐

夕佳

扇的

初考  
不局門  
不局門  
不局門



傘之くぬ一樹の陽の晴る

太平 竹裏

素性の通昭乃子まらるる

うらふすの通昭素性おとす

沾涼

玄石千日醉

おの我房のくく保こら子歌

素性 又岳

市中一郭云

雨人やうく時多二室店

松濤奇 魚路

初形ハ多の庭り保くま

沾涼門 涼之

たふさく茶にも法あり時多

未立志門 畑夕

都身よまうく聞せん望希

日門 愚髻

雨をや冬人少中く郭ら

日門 風志

暖を滝よまうく世保く保

風女翁 杏白

杜宇鳥又おのー真達のみま

不扁

たぐ戸の窓木のまりおとす

梅五

通いより茨法へ居居ら杜能

布仙

蕨越一の海に晴さうおとす

伊賀上 倫山

い〜まの水ありし〜時多

伊賀上 原抄

鯉

今海よりそ北浪やまの鯉

沾涼門 五百武

通一矢のみのましつり鯉

涼宇

藍出色い東よ抄るかのを

布仙

すい浪子夏をぬまやまの鯉

露門 周皎

纏う如神海澄海 耶まらる

沾涼門 沾鱗

納屋の戸のあらしきまら神鯉

古竹







蓮

かろきよの何れも終やよこの蓮  
咲を及く根の臺より蓮の如  
風を先て望の居りの蓮の如  
十とくしを折く平く蓮の指  
欠とく蓮の巻葉よ森光外

生植

五文字の蓮うまの葉つるの  
筆や他さう種る牛の鼻  
日くは作ゆりや時中葉  
いふらん牡丹の臺よ柳子あは  
宵の雨ぬ六つ七つ花あや先

東巴  
鶴史  
好夕  
周午  
冲而

一漁  
調柯  
梅至  
市紅

其用門 一風

昼影や流る坂のまればけら  
姫百合の目ま電いとも懐子  
去羊足一乃の雨のあやみ葉ふ  
舞余夢遊して流びとる花葉  
咲折る人も人しかなるも  
いとくの水の水す 朝音四

楚殊  
調山  
沾涼  
丈岳  
志調

舟のくぬや神を夢よけよの爲  
舟乃花や真田丸の胡海を  
初風や撥いさきて西東

安祖  
露喬  
沾播

雑藝の心 甲州宗匠  
備てな一倍て程を 甚あふ

萬丁



雜夏

あきりく遠きまゝの夜く  
あきりくやゆきまゝの夜く  
あきりく合流の遠く丹波の海

東潮門 宗瑞  
五山

東隣

莊子に胡蝶のまじり

露門 皓魄堂

露庭

硝子の魚く化しゆく蚊の音  
ゆきまゝの世も生貝の粒加減

小島氏 雨桐

ゆきまゝの世も生貝の粒加減  
ゆきまゝの世も生貝の粒加減

千羽門 有月堂 隣角

あきりくやゆきまゝの夜く  
あきりくやゆきまゝの夜く

月門 枝月堂 葉角

あきりくやゆきまゝの夜く  
あきりくやゆきまゝの夜く

月門 陽月堂 耕雪

あきりくやゆきまゝの夜く  
あきりくやゆきまゝの夜く

月門 江月堂 岷角

あきりくやゆきまゝの夜く  
あきりくやゆきまゝの夜く

あきりくやゆきまゝの夜く  
あきりくやゆきまゝの夜く

浮月

五月や二十の春て凡く男  
切法池乃志く夜を写す法外

水戸相隈 沾隣

造るるよふあまうし玉浪のぬふ  
果報のいふ人のあまの野の塵

日 沾瑤

天世のちまき何まじりくあまうし  
そまじりくあまうしあまうし

宇都宮 青嵐 鴨

紫菀

幾水

未石

紫菀

梅立

未石

布仙

梅立

五石武

布仙

原之

五石武

原之

原之

風

原之

風

原之

風

原之



神の孫よ此の世にまよふものぞ 千翁

神祇 鯛のつらさ 神の留之居の狭箱  
釈教 一文の難陀 抜泡を下拵

玉一こよふてり

無常 業平も大豆を漸くするも  
徳 かの河にた摺のもあらず死天の空  
迷懷 女房にも後を足せそよまの

夕乃遊 四季 梓沢巴雲

松 解く氷は月流しや松の雪  
榊 月さすや鞠をそとるも其柳  
撈 葉の秋を散るも桜の喜そふ  
帆 水もや雪のあるを相流

題冬川 奇仙

|                 |     |
|-----------------|-----|
| いふといぬ舟乃情さしを此川   | 五百武 |
| さびしき水車の雪降るも雪    | 油涼  |
| 尺通りの鐘も尾上とも明て    | 倫仙  |
| 茶乃輝 輝くじとりの初よる   | 梅五  |
| 當年も此の雪の葉鶴既      | 五百武 |
| 詩と作し一き 龍乃葉内     | 倫仙  |
| 長日子はうねて大工のかし馬溜子 | 々   |
| 況躍川と出さし雪さるる身は   | 五百武 |
| 紅猪口子 一園を海と指の踏   | 々   |
| 同屋の長者 五尺も如板     | 々   |

○中

○禁







酒志海もあゝ海男 花の文 備仙  
去乃白ひり今取くらの鐘 梅五

師不知 季吟門 現  
得入 小沢氏 長子同苗 尺 始孤吟云 尺 長子同苗

青柳の海のよりこのとあかき 得入

秋乃雲富士をいんくまな海軍より 占 尺

一帯一之志さり 萬蒲の如 今 尺

芭蕉翁事初まあて始て飯をとり 占 尺

梅留袖

伴登小所 式アも梅の中へ金巻 沾山氏 沾師

沼原万句享保十二丁未三月十七日

湯治天満宮社世にかのく無り

賀

礼物不受 座料

い〜〜や北中乃下此 魚路

る味や伸 一七子葉乃凡此也 五百貳

山あ子ハ方白無沙の起立

花子尺よ今羊一 万葉百千台 湖下

蔓長一ハ乃長浪神一乃池 佳風

花子尺々一苗此千もハ菊の松 潭北

香久心や神代の極一 通津介 露牛

あ免清き千園子唱ハ 弟を雀 吏登



連鞠ハされても坊主中百う如  
 十二座のわしをわむの物も  
 毫よふは藤江乃く如北據  
 笠塚や出のてしよのあ乃雲  
 松をらは中一にわびあり花の門  
 卦を舞じし藤新報七海に  
 手柳あり花の中少く人北風  
 世よふまじし舞者のまじし花の時  
 花かしきくまはれ口いこ井  
 園空子こくくハありの葉を雀  
 やうそあを不二まじくくありの菊

一漁  
 連歌師  
 丈裳  
 枕翁  
 當国  
 沽山  
 白雲  
 百里  
 雨橋  
 節士  
 東巴  
 露月

花や今不二の襟りと菊草  
 月よふれこあまもみ葉北あ根  
 花いつ一雨満花河津河  
 文多の息もさくくの日わ外  
 葦の牙の力を欠する入江  
 うらひすの山そよそを葉を如  
 是歌や庭も葉曲の花出り  
 松の根の腰あまやうを如く  
 芳しき草にわらわぬの草  
 赤く廣葉あまにわらわぬ乃松  
 雲子入るると並ぬや筑波山

丈岳  
 末石  
 八十店  
 中車  
 東岡  
 仙杏  
 吳竹  
 凍之  
 倫仙  
 紅夕  
 雪朝







